

日本語学習者の母語における授受表現の認識と日本語授受補助動詞の習得の関係について

—中国人朝鮮語母語話者と韓国語母語話者を対象に—

朴 錦女

1. はじめに

日本語の授受動詞は「やる／あげる」「さしあげる」「もらう」「いただく」「くれる」「くださる」など他の言語に比べ多様な形式を持っており、どれも授受補助動詞として使われている。

日本語の授受表現はその形式が多様であるだけでなく、物や好意の移動方向や授受行為の参加者間の上下・親疎関係などの要素が複雑に絡んでいることから、日本語特有の表現であり、日本語学習者にとっては非常に習得が難しい項目であるといわれている。

日本語と同じく膠着語である韓国語でも、その韓国語の授受動詞には「주다 / juda / (やる、あげる、くれる)」「받다 / batda / (もらう)」「드리다 / deurida / (あげる、さしあげる)」「주시다 / jusida / (くださる)」など4種類しかない。その中でも「받다 / batda / (もらう)」は授受補助動詞としての使用は非文法的だとされている。このような背景から韓国語母語話者にとって日本語の「～てもらう」は馴染みにくい表現であると言える。

しかし、「～ 어 (아) 받다 / ～eo (a) batda /」¹が非文法的だと言われている韓国でも、日韓辞書に「～ 어 (아) 받다 / ～eo (a) batda /」が使用されるなどの矛盾が生じている²。母語転移の観点からすると、韓国語の「～ 어 (아) 받다 / ～eo (a) batda /」表現をすでに使っている人にとっては、日本語の「～てもらう」の習得に有利ではないかと考えられる。

¹ ローマ字表記は、2000年大韓民国文化観光部告示第2000-8号「国語のローマ字表記法(국어의 로마자 표기법)」によるものである。「～ 어 (아) 받다 / ～eo (a) batda /」は韓国語の「받다 / batda / (もらう)」の補助動詞としての形式であるが、韓国語ではこの形式は非文法とされている。

² 韓国語では一般的に「～ 어 (아) 받다 / ～eo (a) batda /」は認知されていないが、しかし、この表現を認める意見もある。中島・文(1986)では「～ 어 (아) 받다 / ～eo (a) batda /」に前接する動詞の制限について言及していて、それによると新たな物を作り出す意味をもつ「쓰다(書く)」、「그리다(描く)」、「만들다(作る)」といったいわゆる作成動詞に前接すると指摘している。また、『コスモス朝和辞典』(1988)にも、「나는 어머니에게서 한복을 해 받았다. (わたしは母に朝鮮服を作ってもらった)」という例文が挙げられている。

また、日本語教育において、同じものとして扱われている朝鮮語と韓国語でも、「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対する認識に違いがある。本稿では、「(現在)」を削除)大韓民国で使用されている Korean Language を「韓国語」とし、それを母語とする人を「韓国語母語話者」とする。また、中国国内の朝鮮族が使用している Korean Language を「朝鮮語」とし、それを母語とする人を「中国人朝鮮語母語話者」とする。

本研究では以上の2点に着目し、「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」が韓国語母語話者と中国人朝鮮語母語話者にとってどのように認識されているかを調べ、「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」表現に対する同じ言語の地域間の差異を調べることにする。

また、その違いが日本語の授受補助動詞の習得において、どのような影響を与えるかを調べることにする。

2. 先行研究

今まで韓国語の授受表現についての先行研究は主に日本語の「～てもらう」に相当する韓国語「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」という表現は非文法的であり、日本語の多義性から「～てもらう」を韓国語ではその代替形式によって表現されるという説が主流であった。

しかし、谷守・林 (2001) では日本語の「～てもらう」を韓国語で表し得る代替の言語形式について、辞典を調査対象として有効性について検証した結果、韓国語の「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」という表現はすでに一部では使われており、場合によっては多くの代替形式より、一番生産的で有用な表現である可能性を示唆している。

同じ言語環境の中でもゆれ動く「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」表現が、半世紀以上違う環境にさらされていた中国の朝鮮語ではどのように認識されているか興味深い。そこで、本研究では韓国語の「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対する認識の実態を把握するため、韓国語母語話者と中国人朝鮮語母語話者を対象に調査を行う。また、その認識の違いがあるのであれば、日本語の授受補助動詞の習得にどのような影響を与えるかを調べることにする。

3. 研究概要

3. 1 研究目的

本研究では、「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」を韓国語母語話者と中国人朝鮮語母語話者がどのように認識しているかを明らかにし、「～어 (아) 받다 /～

eo (a) batda/」に対する認識の違いが、日本語の授受補助動詞の習得においてどのような影響を与えているかについて調べることにする。

3. 2 本研究の仮説

本研究では、韓国語母語話者や中国人朝鮮語母語話者が第二言語としての日本語を習得する際に母語の転移や干渉が生じているとみる立場から、「～어 (아) 받다 / ～eo (a) batda/」に対する韓国語母語話者と中国人朝鮮語母語話者の認識の差異を明らかにし、その差異が日本語の授受補助動詞の習得にどのような影響を与えるかを明らかにするため、次のような仮説を立てることにした。

仮説1：一般に中国人朝鮮語母語話者は韓国語母語話者より「～어 (아) 받다 / ～eo (a) batda/」に対する許容度³が高い。

仮説2：「～어 (아) 받다 / ～eo (a) batda/」に対して許容の度合いが高い中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より日本語の授受補助動詞の習得が容易である。特に、日本語の「～てもらう」の習得において中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より習得が容易である。

3. 3 調査内容

本研究では、仮説1と仮説2を検証するため、同じ調査対象にアンケートIとアンケートIIを用いて調査を行い、二つのアンケート調査の結果について総合的に分析を行う。

3. 3. 1 アンケートI

アンケートIでは、「～어 (아) 받다 / ～eo (a) batda/」についての朝鮮語母語話者と韓国語母語話者の認識を明らかにするため、谷守・林 (2001) の用例を参考にして日本語の「～てもらう」文を作成し、それを朝鮮語・韓国語に訳し、その訳文について「正しい・正しくない・よくわからない」など3つの中から判断するように促した。訳文には「～어 (아) 받다 / ～eo (a) batda/」で訳した文が15問であり、「～어 (아) 주다 / ～e (a) juda/」⁴で訳した文が10問である。本研究では、アンケートIの設問で「正しい」と答えた人数を数え、それが全体に占める割合を許容度とすることにした。アンケートIの問題形式は例1に挙げている。

例1：私は先生に推薦状を書いてもらった。

³ アンケートIの設問で「正しい」と答えた人数を数え、それが全体に占める割合を許容度とする。

⁴ 「주다 / juda/ (やる、あげる、くれる)」の補助動詞として用いるときの形式である。

나는 선생님께 추천장을 써 받았다.

正しいですか? (正しい 正しくない よく分からない)

3. 3. 2 アンケートⅡ

アンケートⅡでは、授受補助動詞の習得状況を明らかにするため、絵を見てその状況にあう授受補助動詞を選ぶ選択問題を14問作成した。その内訳は、「私」と「相手」の関係が上下関係で、さらに身内でない場合が5問、「私」と「相手」の関係が上下関係で、身内の場合が5問、「私」と「相手」の関係が平等関係の場合が4問である。アンケートⅡの問題形式は例2で挙げている。

例2：絵を見てその状況にあうものを次のA, B, C, D, E, Fの中で一つ選んでください。

어머니는 신문의 글씨가 작아서 잘 보이지 않는다.

(母は新聞の文字が小さくてよく見えません。)



①私は母に新聞を読んで ()。

- A あげた B さしあげた C もらった
D いただいた E くれた F くださった

3. 3. 3 調査対象と実施方法

本研究の調査対象となった中国人朝鮮語母語話者は、中国遼寧省瀋陽市のある朝鮮族高等学校の高校1年生と高校2年生である。日本語学習歴は殆ど3年以上5年未満

である。実施時期は2009年7月である。実施時間は30分であった。中国人朝鮮語母語話者の配布部数は100部で、有効回答数は97部であった。

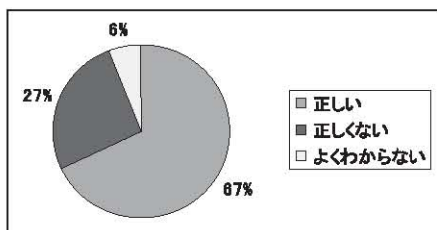
韓国語母語話者は韓国ソウルのK大学の大学生が殆どで、その他に韓国の市民文化会館で日本語を勉強している人が8名含まれている。日本語の平均学習歴は約3年である。大学の学生は主に中級レベルの授業に参加している学生を対象にした。実施時期は2009年9月である。実施時間は中国人朝鮮語母語話者と同じく30分である。韓国語母語話者の配布部数は87部で、有効回答数は83部であった。

4. 調査結果と考察

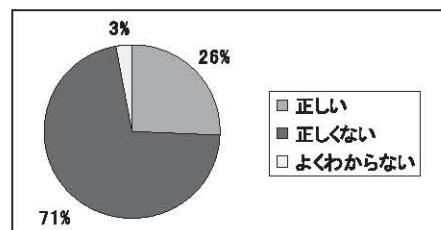
4. 1 アンケートⅠの結果と考察

アンケートⅠでは、一般に中国人朝鮮語母語話者は韓国語母語話者より「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対する許容度が高いという仮説1を検証するため、調査を行った。その結果「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対する許容状況は中国人朝鮮語母語話者の許容度が67%で、韓国語母語話者の許容度は26%であり、中国人朝鮮語母語話者が韓国語母語話者より41%ほど許容度が高かった(グラフ1とグラフ2を参照)。

グラフ1 中国人朝鮮語母語話者の
許容状況の平均



グラフ2 韓国語母語話者の
許容状況の平均



このような結果は仮説1の全体として中国人朝鮮語母語話者は韓国語母語話者より「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対する許容度が高いという予想と一致している。

しかし、「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対して許容度が高い中国人朝鮮語母語話者においても、33%の人は「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」が正しくない、或いはよくわからないと判断している。これは韓国同様に「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の位置が中国の朝鮮語の中でまだ確立されていない現状を反映

している。

「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」が非文法的とされている韓国語でも、26%の韓国語母語話者は正しいと判断していて、谷守・林 (2001) で述べたように「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の有効性を証明していると考えられる。

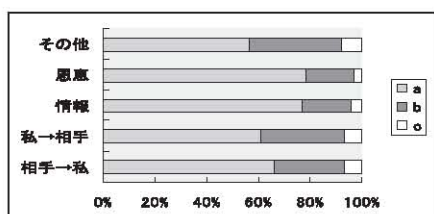
また、中島・文 (1986) では韓国語の「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に前接する動詞の制限について言及していて、それによると新たな物を作り出す意味をもつ「쓰다 (書く)」、「그리다 (描く)」、「만들다 (作る)」といったいわゆる作成動詞に前接すると指摘している。

本研究では、前接する動詞について同じ分類方法を使ったわけではないが、アンケートⅠの結果を分析すると「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に前接する動詞に含まれる意味によって「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が異なるという結果が得られた。例えば、前接する動詞に情報の移動（紹介する、案内する）や恩恵の移動（援助する、救助する）などの意味が含まれる場合、両母語話者の許容度が比較的高く、中国人朝鮮語母語話者においては、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が70%以上であった（グラフ4とグラフ5を参照）。

それから、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」が含まれている文に実物の移動が生じる場合、実物の移動方向によっても「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が異なるという結果が得られた。両母語話者とも実物が相手側から私側に移動する場合（書く、買う）、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が高く、実物が私側から相手側に移動する場合（食べる、持つ）、両母語話者とも「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が低かった（グラフ4とグラフ5にある【→】は実物の移動方向を表す）。グラフ4とグラフ5においてその他に分類された動詞には「待つ」や「座る」などがあるが、両母語話者の許容度には差異が存在するものの、各母語話者ごとの許容度は比較的低いことが分かった。

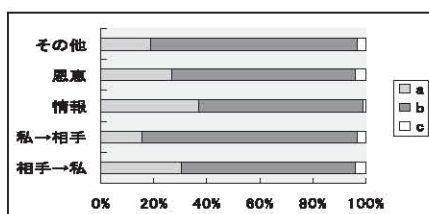
グラフ4 中国人朝鮮語母語話者の

許容状況



グラフ5 韓国語母語話者の

許容状況



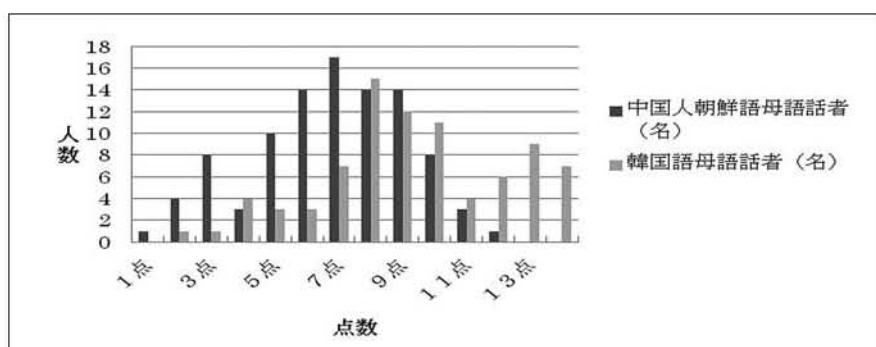
(a 正しい b 正しくない c よくわからない)

「～어(아) 받다 /～eo (a) batda/」に前接する動詞の意味、それから「～어(아) 받다 /～eo (a) batda/」が含まれている文において、実物の移動方向によって両母語話者の「～어(아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が異なることについては、今後の課題とし、さらなる研究を行う予定である。

4. 2 アンケートⅡの結果と考察

中国人朝鮮語母語話者の得点の幅は1点～12点で、その平均値は6.8点である。中国人朝鮮語母語話者の中で得点が10点以上の方は12名で全体の12%を占めている。韓国語母語話者の得点の幅は2点～14点であり、その平均値は9.3点である。韓国語母語話者の中で得点が10点以上の方は37名で、ほぼ全体の45%を占めている。両母語話者の平均の差についても検定を行った結果、1%水準で有意差があった(グラフ3を参照)。

グラフ3 両母語話者の得点状況



アンケートⅡの結果、日本語の授受補助動詞の習得状況において、韓国語母語話者が中国人朝鮮語母語話者より得点が高かった。

アンケートⅡの結果をアンケートⅠの結果と合わせて分析すると、「～어(아) 받다 /～eo (a) batda/」に対して許容の度合いは中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より41%ほど高いが、日本語の授受補助動詞の習得においては中国人朝鮮語母語話者が韓国語母語話者より得点が低かった。

これは「～어(아) 받다 /～eo (a) batda/」に対して許容の度合いが高い中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より日本語の授受補助動詞の習得が容易であるという仮説2の予想とは違う結果であった。

さらに仮説2の日本語の「～てもらう」の習得において中国人朝鮮語母語話者の方

が韓国語母語話者より習得が容易であるということを検証するため、アンケートⅡの「～てもらう」系問題についても分析を行った（表1を参照）。

表1 「～てもらう／～ていただく」問題の平均正答率

	中国人朝鮮語母語話者	韓国語母語話者	両母語話者の差
問3（訳してもらう）	46.39%	68.67%	22.28%
問5（作ってもらう）	29.90%	62.65%	32.75%
問9（書いていただく）	57.73%	85.54%	27.81%
問13（聞いていただく）	44.33%	86.74%	42.41%
問14（直してもらう）	39.18%	51.81%	12.63%
平均正答率	43.51%	71.08%	27.57%

「～てもらう」系問題において、韓国語母語話者の平均正答率は71%で、中国人朝鮮語母語話者の平均正答率は44%ほどであり、韓国語母語話者が中国人朝鮮語母語話者より27%ほど平均正答率が高かった。このような結果は全体の授受補助動詞の得点状況と同様に、韓国語母語話者が中国人朝鮮語母語話者の得点が高かった。このような結果は仮説2の「～어(아) 받다／～eo(a) batda／」に対して許容の度合いが高い中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より日本語の授受補助動詞の習得が容易である。特に、日本語の「～てもらう」の習得において中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より習得が容易である」という予想と異なる結果であった。

4. 3 学習歴が同じである両母語話者の比較

「～어(아) 받다／～eo(a) batda／」についての許容状況と日本語の授受補助動詞の習得との関係をさらに検証するため、日本語の学習歴が同じく3年以上4年未満の韓国語母語話者と中国人朝鮮語母語話者について比較を行う。比較の根拠としては学習歴が同じであると日本語の全体の能力が等しいという考えからである。同じ日本語能力の二つのグループの「～어(아) 받다／～eo(a) batda／」についての許容状況と日本語授受補助動詞の得点状況を調べることによって両者の関係性がさらに検証できると考えられる。

日本語学習歴が3年以上4年未満である両母語話者の「～어(아) 받다／～eo(a) batda／」の許容度は中国人朝鮮語母語話者が54%で、韓国語母語話者は22%で

あり、「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」についての全体の許容状況と同様に中国人朝鮮語母語話者の許容度が韓国語母語話者の許容度を上回っていた。

それに比べ、その学習歴3年以上4年未満の両母語話者の「～てもら／～ていただく」問題の得点状況を見ると、韓国語母語話者の平均正答率65%ほどで、中国人朝鮮語母語話者の平均正答率は34%ほどであり、韓国語母語話者の平均正答率が中国人朝鮮語母語話者の平均正答率をより31%ほど上回っている（表2を参照）。

表2 「～てもら／～ていただく」問題の正答率の比較

	中国人朝鮮語母語話者	韓国語母語話者
問3（訳してもら）	39.58%	57.14%
問5（作ってもら）	31.25%	52.38%
問9（書いていただく）	41.67%	80.95%
問13（聞いていただく）	31.25%	80.95%
問14（直してもら）	27.08%	52.38%
平均正答率	34.17%	64.76%

このような結果はアンケートⅠとアンケートⅡの全体の結果と同様に「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」については中国人朝鮮語母語話者の許容度が高かったが、日本語の授受補助動詞の得点状況は韓国語母語話者が中国人朝鮮語母語話者より高かった。これは仮説2の「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対して許容の度合いが高い中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より日本語の授受補助動詞の習得が容易である。特に、日本語の「～てもら」の習得において中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より習得が容易である」という設定とは異なる結果であった。

4.4 「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」を許容するグループと許容しないグループの比較

韓国語母語話者と中国人朝鮮語母語話者の比較では、「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」についての許容状況と日本語の授受補助動詞の習得との関係性を証明することができなかったが、同じ母語話者の中では「～어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容状況と日本語の授受補助動詞の習得にはどのような関係をもっているのだ

ろうか。これを検証するため、同じ母語話者を「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容するグループと許容しないグループに分け、各グループの「～てもらう」系問題の得点状況を調べることにした。許容するグループと許容しないグループの分け方は、アンケートⅠの「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」問題についての判断状況に基づいてグループを分けた。アンケートⅠの「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」問題15問中、10問以上を正しいと判断した学習者を許容するグループとし、正しいと判断した問題が5問以下の学習者を許容しないグループとした(表3を参照)。

表3 「～てもらう」系問題の平均正答率

	許容するグループ	許容しないグループ
中国人朝鮮語母語話者の平均正答率	33.2%	22.8%
韓国語母語話者の平均正答率	62.2%	59%

中国人朝鮮語母語話者の「～てもらう」系問題の得点状況は、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容するグループの平均正答率が33.2%で、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容しないグループの平均正答率が22.8%であり、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容するグループの平均正答率が10%ほど高かった。

韓国語母語話者の「～てもらう」系問題の得点状況においても、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容するグループの平均正答率が62.2%で、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容しないグループの平均正答率が59%であり、中国人朝鮮語母語話者同様に「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容するグループの平均正答率が高かった。

このような結果は、同じ母語話者の中で「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容するかないかは日本語の授受補助動詞の習得に影響を与えており、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」を許容するグループが許容しないグループより日本語の授受補助動詞の習得が容易であると考えられる。

4. 5 考察

アンケートⅠとアンケートⅡの結果をまとめると、「～ 어 (아) 받다 /～e (a) batda /」については仮説1の予想のとおり、全体として中国人朝鮮語母語話者は韓国語母語話者より「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda /」に対する許容度が高かった。

仮説2の「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対して許容の度合いが高い中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より日本語の授受補助動詞の習得が容易であり、特に、日本語の「～てもらう」の習得において中国人朝鮮語母語話者の方が韓国語母語話者より習得が容易であるということは中国人朝鮮語母語話者と韓国語母語話者の比較ではその関係性を証明することができなかった。

仮説2の予想と異なる結果が出た原因は、今回の調査対象者の選択に問題があると考えられる。今回の調査では、日本語学習歴を基準にして調査対象者を確保したため、中国人朝鮮語母語話者は中国遼寧省瀋陽にある某朝鮮族高校の高校1年生と高校2年生が対象となり、韓国語母語話者は大学2年から3年生が対象になった。これによって両母語話者の年齢と学習経験に差異が生じたことも一因であると考えられる。また、調査対象となった中国人朝鮮語母語話者は日本語を第1外国語として勉強しているが、韓国語母語話者は英語の学習経験を持っていて、日本語は第2外国語として勉強している。このような外国語の学習経験の違いも仮説2の検証結果に影響を与えた可能性も捨てきれない。

このような諸要因から仮説2は証明されなかったが、同じ母語話者の中では、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が日本語の授受補助動詞の習得に影響を与えており、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」を許容するグループが日本語の授受補助動詞の習得に有利であるという結果が得られた。これは、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容度が日本語授受補助動詞の習得にプラスの影響を与えることを証明した結果である。このような結果は、今後調査対象の条件を厳密に揃えて検証を行うと仮説2の予想が妥当であることの可能性を示唆している。

5. まとめ

本研究の調査結果、一般的に中国人朝鮮語母語話者は韓国語母語話者より「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」に対する許容度は高かったが、得点状況は中国人朝鮮語母語話者が韓国語母語話者より低かった。また、学習歴が同じである両母語話者の比較からも同じような結果が見られた。これは、本研究の仮説2に反する結果であった。しかし、同一母語話者集団内では、「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」について許容度が高いグループが許容度の低いグループより日本語の授受補助動詞の習得において正答率が高いことがわかった。このような結果は「～ 어 (아) 받다 /～eo (a) batda/」の許容状況が少なからず日本語の「～てもらう」の習得に影響を与えていると考えられる。つまり母語の正の転移が認められる結果であった。

今後、調査対象者の条件を厳密に揃えて調査を行い、日本語学習者の母語における授受表現に対する認識と日本語の授受補助動詞の習得との関係だけではなく、日本語の授受表現の習得における学習ストラテジーの個人差についてもさらなる考察を行いたい。

参考文献

- 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える』アルク
庵功雄ほか(2001)『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』アルク
井上和子(1989)『日本語文法小事典』大修館書店
市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』アルク
上野田鶴子(1978)「授受動詞と敬語」『日本語教育』35号 pp. 40-48 日本語教育学会
迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
谷守正寛・林田(2001)「日本語のテモラウの韓国語辞典における取り扱いについて」
『鳥取大学教育地域科学部紀要』pp. 149-158 鳥取大学教育地域科学部
中島一裕・文燕友(1986)「日韓語授受表現の対照研究」『国語表現研究』第3号 pp. 56
—64 大阪教育大学国語学第1研究室
野田尚史(2001)『日本語学習者の文法習得』大修館書店
山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の
文法』明治書院
油谷幸利(1988)『ハングルの基礎』大修館書店
尹喜貞(2006. 6)「授受補助動詞の習得に日本語能力、及び学習環境が与える影響—韓
国人学習者を対象に」『日本語教育』130号 pp. 120-129 日本語教育学会
尹喜貞(2006. 12)「日本語学習者の授受動詞の習得における母語の影響」『第17回第二
言語習得研究会全国大会予稿集』pp. 87-88 第二言語習得研究会

付記

本稿は、2011年度東京学芸大学大学院教育学研究科に提出した修士論文の一部を元
にしている。本誌投稿にあたり御指導下さった浅川哲也先生に御礼申し上げる。

(ぼく きんじょ・首都大学東京大学院博士後期課程)